

令和6年度使用教科用図書採択に係る会議録（要旨）

- 1 期 日 令和5年7月24日（月）
- 2 会 場 美濃加茂市生涯学習センター
- 3 出席者 教育長、教育委員（5名）、
事務局長兼教育総務課長、課長補佐
学校教育課長、課長補佐、教育センター次長
- 4 議 事 令和6年度において使用する教科用図書の採択について

〈学校教育課長 提案理由や選定方法などについて説明〉

〈学校教育課長 国語の教科書について説明〉

各者の特徴につきましては、別の資料にまとめております。美濃加茂市の子ども達にとって特にふさわしいと考えた2者について詳しく説明します。

【東京書籍】と【光村図書】について比較をします。6年生「書くこと」について、【東京書籍】はSDGsを題材に取り上げ、総合的な学習の時間などに関わらせて学ぶことができます。単位時間の活動が多岐にわたるため、付けたい資質能力をやや焦点化しにくいところがあると考えます。【光村図書】は、映画や音楽など子どもが興味をもっていることを題材に取り上げ、学習をすることができます。単位時間の活動が焦点化されており、目指す姿のモデルも示されているので学習過程が非常にわかりやすいです。書くことに対して苦手意識を持つ児童にとって、学習の見通しが非常にもちやすいと考えます。

ふるさと教育に関わる視点から説明します。目次になります。【東京書籍】は郷土や伝統、SDGsに関する単元は各学年に配置されており、SDGsについて協働的に調べ発信する活動を設置しています。一方【光村図書】は、郷土伝統に関する単元のほかにSDGsに関するテーマを多く扱っています。学年が上がるにしたがって、地域から世界へと児童の視野を広げる工夫もされています。

総合的に比較検討した結果、【光村図書】がより適していると考えます。

〈学校教育課長 書写の教科書について説明〉

各者の特徴につきましては、別の資料にまとめております。美濃加茂市の子ども達にとって特にふさわしいと考えた2者について詳しく説明します。

【東京書籍】と【光村図書】について説明します。1点目は可茂地区の児童の実態から特別な教育的ニーズのある子どもにもわかりやすく工夫された教科書であるかという視点で比較しました。【東京書籍】は、教科書体以外はユニバーサルデザインフォントが使用されています。さらに、とめ・はね・はらいの違いを種類の違うキャラクターで示し注目しやすくしています。【光村図書】は、単元名・教材名や大切なところにはユニバーサルデザインフォントを使用しています。しかし、たいせつコーナーにおいて薄い緑の背景に緑の文字で書いてある部分もあり、やや読みにくさを感じます。

2点目は、知識・技能の確実な習得という観点です。【東京書籍】は、低学年は書きやすい持ち方をしているか比べて確認できるように等身大の目線からの写真が掲載され、土台となる技能の定着に近づけています。このことは外国籍児童の学びにも適していると考えます。【光村図書】は1年生と3年生は硬筆・毛筆の学習を始める学年であることからスタートブックを掲載し基本を大切にしていますが、鉛筆の持ち方において横から見た写真が大きく掲載されているので分かりづらさがあるのではないかと心

配もあります。

総合的に比較検討した結果、【東京書籍】がより適していると考えます。

〈学校教育課長 社会の教科書について説明〉

各者の特徴につきましては、別の資料にまとめております。美濃加茂市の子ども達にとって特にふさわしいと考えた2者について詳しく説明します。

【東京書籍】と【日本文教出版】について説明をします。まず、社会科におけるふるさと教育の推進に関わって、岐阜県に関わる事例や資料について比較しました。どちらも単元「低い土地の暮らし」において海津市を取り上げ、歴史資料館の服部さんの話を文書資料として掲載しています。デジタルコンテンツに関わって、5年生【日本文教出版】のQRコードからはNHK for schoolへ繋がります。一方【東京書籍】のQRコードからもつながりますが、加えて別のQRコードからさらに詳しい服部さんの話を聞くことができます。

可茂地区の課題である基礎的・基本的な知識の育成に、語句の習得を図る工夫は大切だと考えます。6年生の戦争の単元における、原爆投下の記述を取り上げます。【日本文教出版】では、多くの人が一瞬で命を落としたと書かれています。一方【東京書籍】では、一瞬で何万人もの命が奪われると書かれており、状況を想像しやすい表現になっています。また、ソ連の動きについて6年【日本文教出版】では侵攻と表現していますが、【東京書籍】では攻め込みと優しい言葉で書かれています。さらに学習指導要領ではこの学習で日本がアジア諸国に与えた影響を扱うとしてありますが、第二次世界大戦で亡くなった人の資料では、【日本文教出版】ではヨーロッパ諸国まで掲載されているのに対し、【東京書籍】ではアジアに絞られており、資料が精選されていると言えます。

総合的に比較検討した結果、【東京書籍】がより適していると考えます。

〈学校教育課長 地図の教科書について説明〉

【東京書籍】と【帝国書院】について説明します。初めて地図帳を手にする3年生にとって、抵抗なく地図の学習に入れるように巻頭の地図の決まりや使い方について比較をしました。【東京書籍】ではイラストやデジタルコンテンツを使い8頁に渡って紹介し、子どもたちが興味・関心をもって知識・技能を獲得することができます。【帝国書院】では、デジタルコンテンツのキャラクターの対話形式を使って14頁に渡って丁寧に紹介し、子どもたちが興味・関心をもって知識・技能を習得する工夫が見られます。

ふるさと教育の推進の観点から、岐阜県や可茂地区をどのように取り上げているか比較しました。【東京書籍】では模式図や動画を活用して地形の特徴が分かりやすく掲載されています。35・36頁のデジタルコンテンツにおいて、海津市の空から見た映像動画や、67頁の模式図で低い土地の様子が紹介されています。一方【帝国書院】では、地図上のイラストやコンテンツにおいて、岐阜県の特産品や土地利用の仕方が詳しく示されています。岐阜県の地図上のイラストが12件紹介されています。60頁では海津市を含む低い土地の様子が模式図で分かりやすく示されています。

可茂地区に多く在籍する外国籍児童や、学習に困り感を持つ子どもへの配慮という観点で比較しました。【東京書籍】は世界地図の主要国を日本語と英語で説明をしております。一方【帝国書院】も日本語と英語で表記をしておりますが、それに加えてQRコンテンツではポルトガル語でも表記されています。

総合的に比較検討した結果、【帝国書院】がより適していると考えます。

〈学校教育課長 算数の教科書について説明〉

各者の特徴につきましては、別の資料にまとめております。美濃加茂市の子ども達にとって特にふさ

わしいと考えた2者について詳しく説明します。

【東京書籍】と【大日本図書】について説明します。まずは3つの柱をバランスよく育成するという視点についてです。1つの例として2年生の2桁の足し算引き算で説明します。2年生【大日本図書】では、他者に比べて筆算の仕方をブロックや○などの図の操作を並べて表記している問題があります。

【大日本図書】のみ並べて明記している問題は、 $4+23$ など3題あります。一方【東京書籍】では、 $76+58$ は筆算のみの表記となっています。初めて筆算を扱う場面では、形式である筆算と思考である操作をつなぐことが重要です。

次に、4年生の面積の単元で説明します。【大日本図書】では導入時に扱われている日常場面のイラストや写真の中に、単元で働かせたい数学的な見方の手立てとなる意図ある工夫が1頁にわたってあるのが魅力です。単元の途中に広さの感覚をつかませるために、身の回りの物の面積を調べる問題があったり、単元末の確かめで身の回りの面積を問うなどの量感を養う問題が多数あったりします。このように生きて働く知識・理解の面で、【大日本図書】が優れていると考えます。

総合的に比較検討した結果、【大日本図書】がより適していると考えます

〈学校教育課長 理科の教科書について説明〉

各者の特徴につきましては、別の資料にまとめております。美濃加茂市の子ども達にとって特にふさわしいと考えた2者について詳しく説明します。

【東京書籍】と【啓林館】の2者を比較しました。4年生の、地面を流れる水の勢いを例に比較しました。実験方法について、【東京書籍】では校庭の土と砂場の砂を比較して実験しているのに対して【啓林館】ではそれに加えて砂利についても比較で実験しているところに特徴があります。土の粒の大きさと水のしみ込みやすさの関係の考察を、より確かなものにできるような工夫がされています。

次に生活との繋がりについて、3年生の風の力の働きを例にとります。【東京書籍】では、理科の世界探検部として凧揚げと風力発電を取り上げています。一方【啓林館】では、まず身近な例としてタンポポの綿毛、強い風で壊れた傘を紹介し、さらにヨット、風鈴、凧揚げ、風力発電を紹介し生活との繋がりを大切にしている事が分かります。

続いて科学的な思考や考察の部分について、3年生風の力の働きを例に説明します。風の強さを変えて車が動いた距離を調べる実験の結果処理について、【東京書籍】では、3回繰り返し最も遠くまで動いた地点の距離だけを測り、数字で記録をしています。それに対して【啓林館】では、3回の結果全てを測り記録をするとともに、学級全体の結果を一枚のグラフにシールを貼って表すことで、他の班の結果と比較するなど、より多くの結果から考察することに意識が向けられています。

総合的に比較検討した結果、【啓林館】がより適していると考えます。

〈学校教育課長 生活の教科書について説明〉

各者の特徴につきましては、別の資料にまとめております。美濃加茂市の子ども達にとって特にふさわしいと考えた2者について詳しく説明します。

【東京書籍】と【光村図書】がより配慮が見られました。この2者が実際の授業を進める場面を想定し、教室での教師の投げかけや板書を示しています。多様な学び方になるように考えやまとめ方の例がイラストを用いて掲載されており児童が学びの姿をイメージしやすいようにしてあります。また、技能面についても具体的な記載がされています。教員経験の少ない若い先生方が多い現状から考えると、このような配慮があることは指導がしやすいと考えます。

資質・能力の3つの柱をバランスよく育成するという視点で、2者とも意図的な単元構造になっています。特に【東京書籍】では、グループの話し合いの場面を取り入れ、仲間同士で対話をしながら学び

を進めていく過程が詳しく示されています。

次に、町探検で見つけた事をまとめ発表する場面では、2者とも話し合いの視点を明確にしています。グループ学習での話し合いがより具体的に深められるよう工夫されています。特に【東京書籍】では町探検の単元と独立させる形で、調べたことや分かったことを伝える単元を設定しています。発表会や表現活動の場を設定し、計画・準備・実施・振り返りという過程を経験させる中で仲間とのかかわりができたり、より分かりやすくなる工夫を考えたりする学びの深まりが見られます。

総合的に比較検討した結果、【東京書籍】がより適していると考えます。

委員：それぞれ端的に説明をしていただきました。細かいところまで、しっかりとチェックしてありすごいなと思いました。一番最後に説明して下さった生活科について、【東京書籍】の、イラストは、外国の子を入れたり体の不自由な人を描いたり、細かく配慮していると思いました。

課長：各教科書でそのような配慮がされています。

委員：昔ではとても考えられないです。そのような配慮と教科書の分厚さはあまり関係ないですね。算数では、【大日本図書】がより良いという説明でしたが、分厚いですよね。【東京書籍】は上下に分かれているじゃないですか。2年生の子だと結構重いかなあと思いました。これは中身の問題ではないですが、結構大きいなと思いました。

教育長：上下分冊にしているかどうかについては、どうですか。

課長：算数では、【東京書籍】が1年生から5年生までが上下の分冊になっていますが、【大日本図書】は1年生のみ上下の分冊になっています

委員：今の教科書は結構分量があるなと思いました。

教育長：重さについても調査項目にはあります。ひと昔前は、上下分冊にしているところが多かったのですが、年間で一冊にするという意図は、1年間の学習を見通して、指導しやすいという認識でよいでしょうか。

課長：後ほどまた話題にしますが、家庭科では5年・6年生で1冊になっています。これも5年・6年の学習の系統性というか繋がりをわかりやすくするために1冊にまとめているという意図があると考えます。

委員：全ての教科ではないですね。

課長：全てではないです。

委員：教科書採択の流れがこれだけ細かく決められていることや、研究調査をされて決めていることを知らなかったのが、すごいなという感想です。

教育長：社会の低地の所について、木曾三川のところもまた各者で比べてみると、扱い方の違いが出てきて興味深いところもあります。

委員：地図帳についても、昔と比較するとすごい気配りが色々してあるなと思いました。

委員：地図帳について、見やすさの面で【帝国書院】は目がチカチカして見にくかったのですが、子どもたちは、こちらの方が好きかなとったりします。

課長：授業中ずっと地図を見ている子もいます。

委員：見るところがいっぱいありますね。色々な事が記載してあり、教科書を作るって大変だろうなと思います。検討してもしきれません。

委員：実際に、使う子ども達への負担なども比較しながら検討されています。短時間ではありますけど、納得のいく選定だと思いました。

教育長：地図帳の事で話があったので、2者を見比べてみると地図の表し方も随分違うところがあるなと思いながら見ていました。地図帳も含めてですけれども、QRコードのデータが特に今回の

改訂で随分充実しているなと思いました。各者にとっては、これも1つの大きな売りになると
思います。地図帳では、両者のQRコードのデータの違いはありませんか。

課長：基本的に紙の教科書の比較で調査研究を進めておりますので、QRコードの中身についての報
告はありませんでした。ただQRコードの数だけでいうと【東京書籍】36に対して【帝国書
院】は49です。

教育長：数が多ければいいというものではないですが、QRコードによる資料提示は帝国書院の方が多
くあったという事ですね。これもGIGAスクール構想の1人一台タブレットというものが背景
にあります。

委員：どの教科書も素晴らしいなと思いますが、その上でいかに子どもたちが取り組みやすいか、あ
るいは焦点化しやすいか、発展的に取り組めるかということを考えながら選んでいるなど感じ
ました。また、身近な例を取り上げていることはとてもいいことだと感じました。子どもたち
が見ていて飽きない教科書作りを心掛けてみえるのかなってことも感じました。

委員：書写について、【光村図書】の6～7頁と【東京書籍】の4～5頁を比べてみました。【光村図
書】は、右手で書く人は大きく扱われ、左手で書く人は小さめに扱われていました。【東京書籍】
は右手で書く人と左手で書く人のどちらも同じように扱われていて良いと思いました。

教育長：そういう配慮がみられるということですね。【光村図書】ではおそらくQRコードから右手で書
く人と左手で書く人の動画が出てくると思いますが、【東京書籍】では教科書にそれが示されて
いていいですね。

課長：先ほどの地図帳のQRコードで、どんな内容があるのかということですが、【東京書籍】ではク
イズや動画、楽しく学習を進めるコンテンツや都道府県別の白地図、発展的な学習に役立つウ
ェブサイトへのリンクなどが充実しています。【帝国書院】は、クイズやアニメーション、楽し
く学習するコンテンツ、47都道府県の地形や土地利用などのテーマ地図、統計資料など発展
的な学習に役立つウェブサイトへのリンクが充実しています。

教育長：理科について、5者ある中で2者をピックアップして説明がありましたが、内容も実験の仕方
も随分違うと思いました。教科書の大きさについて全体的な傾向を教えてください。

課長：理科の5者の比較について、【東京書籍】と【大日本図書】がA4判で大きなものになります。
【教育出版】がB5判です。【啓林館】と【学校図書】はそれよりさらに小型になり、やや高さ
が低い形です。こちらは横開きで見やすい。机の上に置いて全体を見渡しやすいという特徴が
あります。

教育長：1ページの面積は違うけれど、【啓林館】の方が見開きで見やすいように思います。見通しをも
って学習することにつながります。3年生の教科書しか見ていませんが、その分【啓林館】の
ページ数は多いです。

課長：6年生で比較すると、【東京書籍】は201頁、【大日本図書】は232頁、【啓林館】は216
頁です。

〈学校教育課長 音楽の教科書について説明〉

【教育出版】と【教育芸術社】について比較をします。1年生の教材「ひらいたひらいた」について
【教育出版】は方位磁針マーク、学びナビで児童が見通しをもって学習を進めることができるように学
びの手順が示されています。ここでは、お花の様子を歌や動きで表そうと児童が行う事を記述していま
す。1人1人の児童が歌詞にあった表現の仕方を工夫し、仲間と見合いながら楽しく活動するという構
成です。一方【教育芸術社】は蓮の花はどのような様子か。蓮の花のように開いたりつぼんだりして遊
びまじょうと、仲間と一緒に遊ぶ活動を記述しています。そのあと蓮の花の様子を思い浮かべながら友

達と声や体の動きを合わせて歌いましょうと協働的な学習活動ができる構成です。

4年生の和楽器。琴の教材を例に報告します。【教育出版】は共通教材、さくらさくらの学習と関連させて鑑賞曲、さくら変奏曲を構成しています。共通教材の学習でさくらのイメージを十分に膨らませ、琴の学習に興味・関心を持てるような配慮がなされています。一方【教育芸術社】は、6頁にわたり日本の音楽でつながろうという題材で琴を取り扱っています。鑑賞・演奏・音楽作りの3つの領域と活動がバランス良く含まれており、同じ題材の中で実際に琴を演奏する活動までが含まれています。

総合的に比較検討した結果、【教育芸術社】がより適していると考えます。

〈学校教育課長 図画工作の教科書について説明〉

【開隆堂】と【日本文教出版】の2者について比較しました。まず3つの柱に対応した学習の目当てが2者とも明記されています。違いは目当ての項目の示し方です。【開隆堂】では3つの観点を3項目で平易な言葉で特に中心となる目当てを下線と赤色の文字で強調しています。一方【日本文教出版】は各題材において表現と鑑賞を一体として捉え3観点を5項目に細分化して示し、評価規準の観点を児童も教師も正しく理解できるよう工夫されています。平易な言葉で分かりやすい【開隆堂】の表記と比べ、【日本文教出版】ではそれぞれの題材についてどんな力がつく和良好的か、またどんな工夫をすれば良いのかがより明確な表記となっています。

調査項目3-(3)については2者とも巻頭に年間の見通しを持つページがあり、いずれも児童に分かりやすく表示されています。【開隆堂】では、巻末にひらめきショートチャレンジという楽しんでできる小題材を取り上げ、活動を通して発想の仕方を示しています。一方【日本文教出版】では、図工の見方という資料で、学年に応じて低学年では五感を使った身近なものを見方を紹介し、中・高学年では発想の仕方や発展的なものを見方を育むしかけがなされています。造形的なものを見方・考え方や豊かな形や色との出会いが大切にされています。

総合的に比較検討した結果、【日本文教出版】がより適していると考えます。

〈学校教育課長 家庭の教科書について説明〉

【東京書籍】と【開隆堂】の2者について比較しました。【東京書籍】では見開き1ページに各教科との関連や焦点を絞って示されています。また、5年生で学ぶこと、6年生で学ぶことが横一列で示され明確になっています。また、6年生で夏を涼しく爽やかにと冬を明るく暖かくを学び、年間を通じて冬と夏の生活を比較しながら学ぶことができます。一方【開隆堂】では、学年の表示がなく示された順で学習を進めると、5年生で暖かい住まいを快適にを扱い、6年生で涼しい住まいを快適にを扱う順となっています。年をまたぐことで、夏と冬の生活の比較が難しくなると考えます。家庭科の授業経験の少ない教師が扱うことを考えますと、学習の順が明確であり示された通りに学習を進めると自然に季節の比較をしながら学習できる指導のしやすさが重要な点だと考えます。

次に、学びの配慮について、炒める調理を例にとります。ここでは、4者とも野菜炒めが調理実習の献立として取り上げられています。【東京書籍】では、作り方とともに野菜を切ったあとの実物大の写真が掲載されています。ピーマンの幅5mmとはどの程度のものか計画の段階からイメージでき、教科書の写真をたよりに学習を進めることができます。一方【開隆堂】では、作り方と同じページにイラストで野菜の切り方が示され、巻末に実物の写真が掲載されています。教科書を開けば作り方とどのぐらいの大きさに切るのがよいのかが明確である【東京書籍】の教科書は、子どもにも伝わりやすく、教師にとっても指導しやすいものではないかと考えます。

総合的に比較検討した結果、【東京書籍】がより適していると考えます。

〈学校教育課長 保健の教科書について説明〉

各者の特徴につきましては、別の資料にまとめております。美濃加茂市の子ども達にとって特にふさわしいと考えた2者について詳しく説明します。

【東京書籍】と【光文書院】について、比較検討します。バランスよく資質能力を育てる視点について2者の内容を比べると、考えるという点で違いがあります。けがや事故の原因を例にとります。【光文書院】では話し合おうというステップで、けがや事故の起こる原因を人の行動と環境に分けて自分で考え、仲間と話し合おうという活動にとどまっています。一方【東京書籍】では、原因のみではなく事故やケガを防ぐための対策についても考え話し合う構成になっています。さらに、話し合ったあとに他の人の意見を聞いて考えたことや分かったことを書きましようという活動が位置付けられています。自分の中で考えを再構築することができ、より考えを広げたり深めたりする力をつけることにつながります。

次に ICT を活用した個別最適な学びについて、病気の起こり方を例にとります。【光文書院】では考えようの部分には ICT は活用されておらず、教科書からの読み取りにとどまっています。しかし【東京書籍】では、タブレットを操作しながら自分で考え、それを仲間に伝えることで考えを深めることができます。他者にはないコンテンツです。風邪をひく要因について、1人1人がタブレットを操作する活動を通して考えを深める場が位置付けられており、個別最適な学びを提供することにつながります。

総合的に比較検討した結果、【東京書籍】がより適していると考えます。

〈学校教育課長 英語の教科書について説明〉

各者の特徴につきましては、別の資料にまとめております。美濃加茂市の子ども達にとって特にふさわしいと考えた2者について詳しく説明します。

【東京書籍】と【開隆堂】について、学年相互間の系統性、発展性について説明します。【東京書籍】では、5年生の巻頭に文部科学省のレツトライの学習内容をまとめたページを設け、5～6年生でも表現を繰り返し扱うなどスムーズな接続が意図されています。一方【開隆堂】の5年生の巻頭に3～4年生の学習事項が文字とイラストで提示され、重要な表現は5～6年生でも繰り返し扱っています。

次に、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした学習活動について、夏休み前のまとめのページについて報告します。【開隆堂】では聞くこと、読むこと、手本を見ながら書くことで、確かめた先生に自分の事を話す活動が設定され、4技能の定着を確かめるようになります。インタビューでは、メモをとり先生の話す活動が設定されています。一方【東京書籍】ではチェックやステップ1では自分のニュースを話す活動が位置付いています。聞き取りのあと伝えたいことを整理して、友達やクラスに向けて話す活動が示されています。ステップには工夫したいことを考える場があり、児童が主体的に内容や方法、話し方について思考・表現する過程が位置付いています。【東京書籍】は伝えたいことを形成・整理する活動が位置付いており、主体的・対話的で深い学びができる学習活動ができる設定となっています。

総合的に比較検討した結果、【東京書籍】がより適していると考えます。

〈学校教育課長 道徳の教科書について説明〉

各者の特徴につきましては、別の資料にまとめております。美濃加茂市の子ども達にとって特にふさわしいと考えた2者について詳しく説明します。

【東京書籍】と【日本文教出版】の2者について説明します。1年生の二わのこりの教材で比較をしました。【東京書籍】では状況の説明が中心で気持ちを考えさせるようになっています。表現がシンプルである良さがあります。しかし、行間を読み取る難しさがあります。一方【日本文教出版】は気持ちを表す言葉を文字で表しています。詳しくてわかりやすいという良さがあります。しかし、教材によっては読み取らせたい気持ちも、文字になってしまっているということもあります。どちらも良さはあり

ます。外国人児童・発達障がいのある児童など、文章から気持ちを読み取ることが困難な児童への配慮が必要です。また、詳しくわかりやすいことは経験の浅い先生の指導の助けにもなると考えます。

総合的に比較検討した結果、【日本文教出版】がより適していると考えます。

委員：今の教科書は、空白があって書き込むことができるんですね。失敗したら汚くなるかなと思ったんですが、今は教科書に直接書かせるんですか。

課長：教科書に書かせる教員もいますが、基本的にはノートを使用しています。道徳では【日本文教出版】のみ教科書と連動した別冊ノートが用意されております。ただこれも使いようによって、担任がプリントを自作する場合もあれば、そのまま活用する場合があります。経験の少ない教員にとっては、教科書と連動しているので使いやすいとは思いますが。

教育長：教科書に吹き出しが書いてあり、その中に言葉を書きましょうっていうのも工夫としては増えてきていると思います。

委員：児童もそうですが、専科でない教科を教えなければならない先生にとっても、この教科書なら教えられるということは大きいと思います。また、子どもたちが気付きをもてるかということや、能動的な学びができるかということについて、どれだけ配慮されているかということを考えていました。

委員：面白いです。教科書は見飽きません。ずっと読んでても面白いと思います。

教育長：こういう機会も面白っていったら語弊がありますが、興味深い。家庭科の調理についてもピーマンが実物大で切られているものが示してあるのかどうかの違いなど。

委員：音楽の琴のことで、授業で子ども達は実際に琴を弾くこともできるのですか。

課長：学校に琴はあるので弾くことはできます。

教育長：和太鼓を学校に入れたりとか、和楽器も順次配置しています。

教育長：4年間この教科書を原則使っていくことになるのですが、たまたま見て思ったのは写真で、子どもたちの顔が【開隆堂】はマスクをしていない顔が写っているのに対して、【日本文教出版】は、ほとんどマスクをしている顔が写っていて、取り上げ方に違いがあると思いました。

委員：地図なんかは新しく変わりますよね。そういうときは補足とかが通知されるのですか。

課長：はい。歴史が変わったり表現が変わったりする場合は通知があります。

教育長：いろいろなご意見やご質問いただきましてありがとうございます。それでは、議第1号の令和6年度に使用する教科書の採択について事務局から提案のありました採択原案を採択することについてご異議はございませんか。

委員：異議なし。

教育長：ご異議等はないという事ですので、議決されたとして認めます。